

としての特色を打ち出していくことが大切と考えています。

また、学会として実施するからには、受講枠に会員優先枠を設けるなど、学会員にとってメリットのある運営方法を考えていく必要があるとも考えています。

今年度も引き続き次の日程で免許更新講習の開設を計画しています。

平成21年度の関西個性化教育学会が関係する更新講習の予定

講習日	内容	会場	対象
① 8月3(月)・4(火)	事項A	神戸国際大学	小・中・高
② 8月7(金)・8(土)・9(日)	事項B	高知大会会場他	小・中・高
③ 8月17(月)・18(火)	事項B	神戸国際大学大山研修所	中・高
④ 8月19(水)・20(木)・21(金)	事項B	神戸国際大学	小
⑤ 10月31(土)・11月7(土)・14(土)・21(土)・28(土)	事項B	神戸国際大学	小

また、免許更新制に理解と関心を持っていただくためのシンポジウムを下記のように計画しております。多数ご参加いただけますよう周りの方に周知していただければ幸いです。

シンポジウム「教員免許更新制ーその使命と課題ー」
日時：平成21年3月20日(金)13：00～15：00 会場：神戸国際大学

免許更新講習を受けて 五十子 晴美

私は神戸国際大学でBの選択領域、名古屋の椋山女学園大学でAの必修領域の講習を受けました。講習は1日6時間×5日間。毎日その日の講習内容の筆記試験があります。結構ハードスケジュールですが、久しぶりに学生に戻って「勉強した」という充実感があります。実務的なことも含め大学側の大変さも感じました。受講の事務的なことや講習内容の工夫は大学側にお任せすることとし、私は今後受講する方々に自分の体験を伝えていきたいと思っています。

植田 由紀

全体の感想としては、講師によって切り口が違うので、話としては興味深かったです。なかなか日頃生徒と関わっていると、大学の先生の話聞くことはできません。担当講師の話で趣旨は異なるので、その先生がどのようなバックグラウンドの研究をしているのかということ踏まえて、選んでみるとよいかもしいと思いました。

また、自分の勤務校も含めて、昨今外国からの子ども達が増えてきている現状を考えると、「公用語」としての英語を教職教養として教えてほしいと思いました。学校生活に必要なコミュニケーションをとる言葉を教えてもらう必要を感じています。受講の際には、自分でも課題を持って臨み、予備知識を持っておくなど、事前の準備があるとより有意義に取り組めるのではないかと感じました。

(聞き取り・中田)

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉 庶務部長 佐久間 茂和 〒114-0003 東京都北区豊島 8-27 フレーシェル王子神谷 2-914 tel03-3912-2797 e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp 日本個性化教育学会ホームページ http://zenkoren.com/	日本個性化教育学会 第6号 平成21年2月15日発行 編集責任者 事務局 長 奈須 正裕 編集 広報部 中田 泰志
--	--

日本個性化教育学会

発行
平成21年2月15日
発行責任者
加藤 幸次

日本個性化教育学会報

第6号

日本個性化教育学会2009年の取り組みについて 事務局 長 奈須正裕

別紙の通り、第2回の大会が8月8～9日に高知で開催されますが、大会プログラムは、本学会が大学と共同で進めてきた免許更新制講習の一部としても利用できます。詳しくは別紙をご参照ください。今後も、夏の大会プログラムを免許更新制講習として利用できる形で開催していきたいと考えています。ここで一句「個性化の 学びを深めて 免許更新」

8日には、長尾順二四国個性化教育学会会長自らによる「映像に見る望ましい教師像」がエントリー。今回は世界の映画編です。9日のフィールドワークは、街に出て教材開発を実地体験する新企画。授業づくりの腕を高めながらのディープな高知体験にご期待ください。

高知大会で深まるのは学びではありません。8日の懇親会では新鮮な皿鉢料理で舌鼓、9日からはよさこい祭りも始まります。観光を兼ねるにもうってつけの日程です。

なお、今回は免許更新制講習に力を入れたこともあり、「自由研究発表」の実施を見送ることにしました。予定されていた会員のみなさまにはお詫び申し上げます。今後のあり方については、高知大会の理事会、会務総会で改めてご議論いただきたいと思います。

浅沼編集委員長の下、学会誌創刊号の準備が着々と進んでいます。夏の高知大会には、お届けできる予定です。学会誌へのリニューアルの目玉は、会員からの投稿論文の受付です。投稿〆切りは3月31日ですが、まだ間に合います。多くの会員からのご投稿をお待ちしています。なお、投稿規定をHPにアップしましたので、ご参照ください。また、学会誌に関するお問い合わせは、浅沼茂先生（東京学芸大学）042-329-7351 asanuma@u-gakugei.ac.jp までお願いいたします。

研究発表会報告
①愛知県東浦町立石浜西小学校
J S Lカリキュラムワークショップ（文部科学省指定）＆個性化教育研究会

日本で一番見たい学校、行きたい学校 佐久間茂和

2月6日、400人が東浦町の小学校の発表会に集まった。東浦町の小学校だが、緒川小でも卯ノ里小でもない。オープンスクールでもない。しかも、町内ではお荷物扱いされていたという学校であり、外国籍の子どもたちが、3分の1を占めるという相当特別な学校である。この発表会では、J S Lカリキュラム（日本語を母語としない子どもたちの学習支援のためのカリキュラム）＆個性化教育研究会 というタイトルが冠されている。開式行事での挨拶では、外国人子弟が多いのが注目されているので、たくさんの方が集まったと分析していたが、実はそうではない。私も含めた多くの人が、個性化教育、学校づくり、学習づくり、環境づくりの実践を見に行っただけである。見たい、感じたいと思ったのである。そして、それは十分満足させられるものだった。

公開授業は、習熟度別学習、コース別学習、「〇〇学習」であった。特に「〇〇学習」は、2教科同時進行単元内自由進度学習の一人学びで、週プロとも言われている学習である。分科会でも、この学習が話題の中心だった。実践した者だけが得られる確からしさに裏打ちされた石浜西小の先生方の発言に、うらやましささえ感じたくらいである。

シンポジウムでは、J S Lカリキュラムを個性化教育で実践したというアイデアに感心したが、佐

野先生の説得力抜群のプレゼン、竹内淑子先生の実践者としての誇りと自信溢れる発言、澤田先生の切れのある進行のおかげで、短い中でも有意義な、小山校長と竹内淑子先生と石浜西小のスタッフによる、学校づくりが鮮やかに浮かび上がったのである。学校づくりに感心した身としては、サタデーナイトスクールのようなユニークな行事をもっとアピールしても良かったのではと感じて帰路についていたのである。

「チーム石西」の成長

澤田 稔

石浜西小の自主研究会は、午前中の公開授業から始まった。研究会のメインは、子どもが自らのコース選択、計画にそって進める自立的学習を軸とする授業（〇〇学習）である。全校児童250名に、参観者約450名。想像していただきたい。参観者は、個々の子どもの学びの様子を見ようと、子どもたちを取り巻く。廊下から教室を見渡すと、子どもの姿は大人に囲まれて見えないほどだ。その中で、困難校と言われてきた学校の子どもが、はにかみながら、またどこか誇らしげに、自分の活動に集中して取り組んでいた。これが、あの石西!?

実は、来場者の約半数は、小学校教員を目指す女子学生だった。彼女たちにとって、授業と言えば一斉である。「あれっ、チャイムならないよ。授業始まったの?え、これって、授業?先生教えてないよね。でも、子どもたち勉強してる。なんかいろんなことやってる。みんな集中してるよね。あれ、あの子、教室から出て行ったよ。へえ、パソコン室で調べものかあ。よく見ると、廊下も教室も、学習単元のカラフルな掲示や教材でいっぱい。楽しそう。」

しかし、この自主研究会に刺激、あるいは衝撃を受けたのは、初めてこのような学習に触れた参観者だけではあるまい。個性化教育に目の肥えた参観者も、目を見張ったはずだ。実際、午後に開かれた個性化教育に関する分科会は、稀有な水準に達していた。

そこで最も活躍したのは、研究主任でもなく、大学から来た助言者でもなく、実践に取り組んできた「末端の教員」である。その教員陣が「〇〇学習」の意義を、子どもの学びの姿に即して、積極的かつ説得的に論じる。そこに、石西の「教師集団」としての成長が見事に表れていた。この学校は、個性化教育の方法論を子どもに対してのみならず、現職研修にも適用したのだ。〇〇学習の推進を〇〇学習的に、教師集団に対する個性化教育実践の指導を個性化教育的に。ここに石西における取組の神髄があるとは言えまいか。

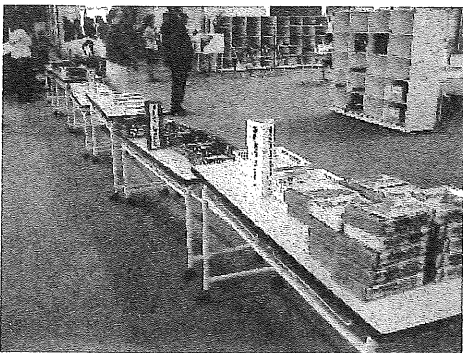
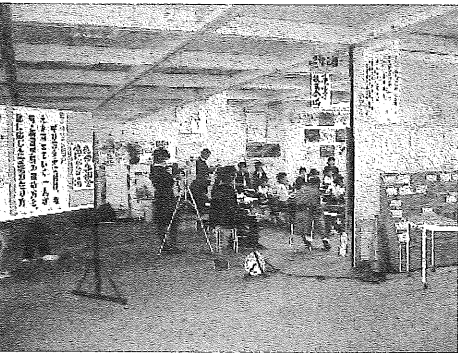
②富山県南砺市立福光中部小学校 福光中部小学校30周年記念公開研究会

福光中部小学校30周年記念公開研究会に参加して

加藤幸次

10月1日（水）、最後に行かせて頂いてから20年は経つであろうか、うれしいことに30周年記念の公開研究会に招いていただいた。尾山校長は、初期の頃、この学校で教えられていた方で、昨年、校長として帰ってこられた方である。お聞きすれば、初代校長の森田清作校長（後に教育長）が、この春に他界されたばかりと聞いた。「自己啓発教育」がスローガンであり、私は「立つな、話すな、整えよ」という名言をここで学んだ。私が行くというので、旧知の先生方が参加してくれ、懇親会で大いに昔話ができた。うれしい、うれしいことである。

福光中部小学校は、緒川小学校より1年前に建設された日本で最初の本格的オープン・プラン・スクールである。



広いスペースを可動式間仕切りで仕切り、学習形態に応じて、自由に空間構成ができる。とは言え、当時の学級規模は45人で、しかも、1学年4クラスあった（今は約30人で2クラス）。このスペースの活用を巡って、試行が繰り返されたことを今でも鮮明に思い出す。苦しかったに違いないが、しかし、活気に満ちていた。昨日のこのように、思い出せるから不思議である。

関西・日本個性化教育学会と大学が連携して行う免許状更新講習

昨年8月に神戸国際大学で行われた、本学会と大学とが連携して行う免許状更新講習について、趣旨や来年度以降の展望、そして受講者の感想について掲載します。以下の要領にて行われました。

- 1 場 所 神戸国際大学(神戸六甲アイランド)
- 2 日 程 2008年8月4日～5日(講義)、8月20日～22日(講義・演習)の5日間
- 3 内 容 (講義は80分、演習は160分)
 - 8月 4日 ① 学校を巡る状況変化(山本克典)
② 専門職たる教員の役割(鈴木正幸)
③ 子どもの発達に関する課題(三宅義和)
④ 子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方(谷口育史)
 - 8月 5日 ① 学習指導要領改訂等の動向(辻村哲夫)
② 法令改正、国の審議会の状況等(辻村哲夫)
③ 各種課題に対する組織的対応の在り方(五百住 満)
④ 学校における危機管理上の問題(五百住 満)
 - 8月20日 総合的な学習の時間を創り、評価する(1・2)(奈須正裕・佐藤 真)
 - 8月21日 小学校における英語活動を創る(1・2)(加藤幸次・玉巻欣子)
 - 8月22日 問題解決学習の技法を身につける(1・2)(高浦勝義・谷口育史)

教員免許更新講習（予備講習）を実施して

谷口育史

いよいよ、今年4月から教員免許更新制が実施されます。これに先立ち、昨年8月、5日間に渡って教員免許更新講習(予備講習)を神戸国際大学との連携で実施しました。京阪神を中心に64名の先生方が受講されました。その内訳は、公立私立の別、公立30%。校種の別、中高一貫・高校籍65%、中学校籍12%、小学校籍18%という構成でした。学会員の方も5名(内聴講3名)受講されました。

計画段階では、公立の小・中学校籍の方を想定して講座を設定していたため、一部の講座内容を変更するなどの対応をせまられました。しかし、普段、接することのない他校種の教育内容に触れたり、教師間の情報交換の場ともなったりと思わぬ効果もありました。

「5日間こんなにすばらしい生き方の講義を直にお聞きできたことを、とてもしあわせに感じています。」「プロとしてお金をもらって仕事をしているという重みを再認識しました。」「初めて知ったこと、改めて考え直したこともあってとても有意義でした。」等々、受講生からの感想は、ほとんどの方が前向きで、今後のご自身の教師人生に役立たせようとの意欲が感じられるものでした。実施した側としては、当初の目的を果たすことができたのではないかと考えております。もちろん、初めてのことであり、課題もたくさん出てまいりました。次回からの講習に役立たせていきたいと思ひます。

免許更新講習のカリキュラム30時間の内「教科指導・生徒指導、その他教育の充実」事項B(18時間)の内容については、講習開設者に任されています。今後は、事項Bについての内容を充実し、学会